

週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

2025 年度年間聖句

「良い土地に蒔かれたものとは、
御言葉を聞いて悟る人」
(マタイによる福音書 13 章 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時～10 時
祈 祷 会 各水曜日
○昼の聖書研究祈祷会
(第3・午後2時)
●夕の祈祷会
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

協力牧師 堂 本 陽 子

協力牧師 井 東 昭

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65

TEL. 042-742-1593

FAX. 042-742-1393

ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>

郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計

00290-4-80707

3175 2025 年 9 月 14 日

礼 拝 式 順 序

(聖霊降臨節第 15 主日)

司 式 者 井 殿 準

奏 楽 者 岡 野 和 美

前 奏	奏 楽 者
招 詞 詩編 95:1～3	司 式 者
讃 美 歌 51 「愛するイエスよ」	一 同
聖 書 I コリント 15:35～52 (新 P. 321)	司 式 者
使徒信条 (93-4-A)	一 同
祈 祷	司 式 者
讃 美 歌 348 「神の息よ」	一 同
説 教 「輪廻しない幸い」	司 式 者
祈 祷	〃
讃 美 歌 580 「新しい天と地を見たとき」	一 同
献 金	〃
主の祈り (93-5-A)	〃
頌 栄 26 「グローリア、グローリア、グローリア」	〃
祝 祷	司 式 者
答 唱 40-6 「アーメン」	一 同
～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～	
報 告	司 式 者
讃 美 歌 91 「神の恵みゆたかに受け」	一 同

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。
- ・マスクの着用は個人の判断にお任せいたします。ご心配な方はマスクを着用してください。

先週の説教要旨

「待っている人がいる」

(ローマ 8:18～25)

地上には多くの人が休暇を楽しむ等している一方で、戦争や災害、病に苦しむ等、数えきれいほどの「うめき」があった。我々自身もうめきの声をあげずにはいられないことも少なくない。

今の時とは、「被造物のうめく時代」と言えよう。神は救い主イエスを我々のもとに遣わしてくださったが、「うめきの時代」であることは昔も今も変わりはない。しかし、違うこともある。それは「今や我々には希望がある」ということだ。我々の希望とは「将来わたしたちに現されるはずの栄光」(18 節)、すなわち救いにあずかることだ。この確かなる希望に支えられながらうめく時代が今という時代と言えよう。

では、この希望に支えられて、我々はいかに生きるのだろうか? 「忍耐して待ち望む」という言葉が記されているが、我々は、じっとしてただ忍耐しているのではない。19 節には「被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます」と記されている。「神の子」とは、我々自身のことにほかならない (8 章 14 節以下参照)。すなわち、被造物はうめきつつ、我々が現れることを待ち望んでいるということだ。世界にはうめきをあげている人々が大勢いる。それら人間のみならず、動物、植物、地球環境等、うめきをあげているすべての被造物によって我々は待たれているとパウロは告げる。我々は、それらうめいている人々、うめきをあげるすべての被造物のもとに進み出て、そのうめきに呼応して、共にうめく者となること、うめきを共有しながら隣り人を愛することを神から期待されていると言えよう。

9 月第一主日は「ラリー・デイ」「振起日」と呼ばれ、夏休み気分から心を奮い立たせて新しい信仰の日々を始める日とされている。「振起日」の今日、我々には我々を「待っている人がいる」こと、うめきつつ、我々が現れるのを切に待ち望んでいるものたちがいることを覚えつつ、心を奮い立たせて、再び世に遣わされて行こう。